

提出日：2016年12月1日

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団 の助成

「在宅医療」 知っていますか？  
家で最期まで療養したい人に。

『自分が、大切な人が、  
終末期を迎える時に準備しておくこと』

報告書

申請者：坂口敏夫  
2015年度後期助成

## 【開催概要】

「在宅医療」 知っていますか？ 家で最期まで療養したい人に。

『自分が、大切な人が、  
終末期を迎える時に準備しておくこと』

日時 : 2016年11月13日 10:00~12:00

会場 : 小山健康医療介護総合支援センター

対象 : 地域住民および医療・介護関連職種

定員 : 120名

ねらい: 「自分が、大切な人が、終末期を迎える時に準備しておくこと」をテーマに2名の講師に宗教家の立場から講演してもらい、その後4名のパネラーとディスカッションを行う。終末期を迎える時、悩み・不安に思う事は多いと思う。身体的なものは医療で対応できる事も多いが、終末期の問題は身体的なものだけではない。大切なのは事前に準備しておく事、考える事ではないかと思う。自分の事として考えておく事の必要性を伝える。

日曜健康フォーラム2016

『在宅医療』 知っていますか？  
家で最期まで療養したい人に



入場無料  
定員120名  
(要申込み)

11月13日(日)  
時間: 10:00~12:00 (開場9:30)  
会場: 健康医療介護総合支援センター

『自分が、大切な人が、  
終末期を迎える時に準備しておくこと』

講師 柴田実: 聖路加国際病院 牧師(チャプレン)  
池内龍太郎: 臨床宗教師・医師

主催: 特定非営利活動法人 おやま医療介護研究会  
協賛: 小山市・小山地区振興会、おやまケアマネジャー協議会  
協成: 公益財団法人在宅医療助成 株式会社50000  
お問い合わせ: おやま医療介護研究会 (ハンディクリニック内) TEL: 0285-28-6777 (平日のみ)

日曜健康フォーラム2016 在宅医療知っていますか?家で最期まで療養したい人に

自分が、大切な人が、  
終末期を迎える時に準備しておくこと

第1部 (10:00~11:00)  
講演  
聖路加国際病院 牧師(チャプレン) 柴田 実  
関東臨床宗教師会代表 池内 龍太郎

第2部 (11:10~12:00)  
パネルディスカッション  
聖路加国際病院 牧師(チャプレン) 柴田 実  
関東臨床宗教師会代表 池内 龍太郎  
医療法人あい 理事長 坂口 敏夫

柴田実  
聖路加国際病院 牧師(チャプレン)

池内龍太郎  
神社神道師、医師、医学博士  
臨床宗教師(東北大学大学院宗教学) 専任  
関東臨床宗教師会代表

坂口敏夫  
日本医科大学卒業、平成13年より小山市でハンディクリニックを開設し、2009年度を以て、専任、医療法人あい理事長として在宅医療の普及と医療・介護の連携の促進に努めている。特定非営利活動法人おやま医療介護研究会理事長。

健康医療介護総合支援センター  
小山県庁舎225号 地下1階7(往復無料利用)



日曜健康フォーラム 参加申込書 FAX 0285-28-6353

氏名: \_\_\_\_\_

※電話での申し込み 受付時間 月~金 8:30~17:30 土日祝はご遠慮下さい  
特定非営利活動法人 おやま医療介護研究会(ハンディクリニック内) TEL: 0285-28-6777  
公益財団法人在宅医療助成 株式会社50000 協賛記念財団の助成を受けて開催しています。

## 【開催内容】

第1部 講演 講師2名 各30分

講師 関東臨床宗教師会代表 池内先生

- ・宗教の歴史について
- ・その時代その時代における死の考え方、死への関わり方について

講師 聖路加国際病院 チャプレン 柴田先生

- ・スピリチュアルペイン、スピリチュアルケアについて
- ・経験した事例を通しての終末期の姿勢について

第2部 パネルディスカッション

パネラー4名 関東臨床宗教師会代表 池内先生  
聖路加国際病院 チャプレン 柴田先生  
関東臨床宗教師会事務局長 井川先生  
医療法人あい 理事長 坂口先生

- ・事例を提示し、参加者に自分が提示された事例の状態だったと仮定して、何を思い、何をするかを考えてもらう
- ・パネラーより意見・アドバイスを行う
- ・参加者からの質疑応答を行う

## 【参加人数】

156人

## 【開催準備および反応・効果】

広報 案内を行政の広報紙、新聞へ掲載、近隣地域はチラシを回覧してもらった。行政機関にポスターの掲示を依頼した。行政機関、関連施設にチラシを置いてもらった。

### 反応・効果

定員を大幅に上回る参加が得られた。在宅医療、終末期に対する興味の大きさが反映された結果であったと思う。

前半では、医療・介護に関わる宗教家より直接の体験を交えながらの講演により自分の事として考える機会になった。

皆が自分自身の事として、自分の身近な人の事として、関連職種の方は自分の対応についても改めて考える事ができた。

後半のパネルディスカッションでは、終末期の事例を提示し自分自身に置き換え考え、その後パネラーよりアドバイスをもらう形式を取った事により、より深い学びになった。

終末期のスピリチュアルペインについて、単に「痛み」ではなく、「生きる意味の痛み、苦しみの意味への問い、等々」を理解する事により漠然とした恐怖心は減り、一歩踏み出すためのきっかけになった。

後記のアンケートにもあるが、今回は短時間での講演であった為、更なる学びの機会を期待する声も聞かれた。

在宅医療をすすめていく上で様々な職種の協力がとても重要であり、何より終末期は自分がどうしたいのかをしっかりと考える事が重要であると感じた。

【講演資料】

NPO法人 おやま医療介護研究会 日曜健康フォーラム

自分と家族の最期のときを  
どうむかえるか

わたしたちの死生観

特に地域の方・医療介護専門職の方へ

30分

plus 質疑応答

2016年11月13日

関東臨床宗教師会 代表  
神社神道神職・精神科医  
池内 龍太郎

[rinsyo.syukyoshi.tokyo@gmail.com](mailto:rinsyo.syukyoshi.tokyo@gmail.com)

自分が終末期を迎えるにあたって  
準備しておくこと

愛する人が終末期を迎えた時に準備  
しておくこと

聖路加国際病院チャプレン 柴田 実

2016年11月13日 日曜健康フォーラム2016

NPOおやま医療介護研究会

場所：小山市健康医療介護総合支援センター

## 【パネルディスカッション資料】

日曜健康フォーラム2016

『自分が、大切な人が、  
終末期を迎える時に準備しておくこと』

### 第2部 パネルディスカッション

パネリスト

関東臨床宗教師会代表	池内先生
聖路加国際病院 チャプレン	柴田先生
関東臨床宗教師会事務局長	井川先生
医療法人 あい 理事長	坂口先生

## 【参加者アンケートの感想】

- ・立場、職種によって考え方が違うという事が分かり勉強になった。
- ・時間が短く感じた。もっと深く知りたかった。また同じ内容で掘り下げて欲しい。
- ・仕事で看とりを行う事が多くがむしやらに取り組んでいたが、本当に理想的な死生観であったのか改めて考えさせられた。
- ・専門的な話が聞けた。内容の中で自分が必要とする事柄を今後深く勉強してみたいと思った。
- ・今現在、正に迷いと疑問の毎日。本当にギリギリの状態日々暮らしている。多方面から考えてみるタイミングとなり参加してよかった。
- ・スピリチュアルパートナーの育成が必要であると感じた。
- ・「臨末宗教師」という言葉を初めて聞いて、自分で死を考えた時こいつも何か足りない、頼るものがないと思っていたので、「あーこれなのか」と思った。
- ・難しいが、具体的事例で身につめられた。
- ・自分が死を目の前につきつけられた時、平静でいられない様な気がした。
- ・興味がある事柄について、宗教面からの話を聞いて面白かった。
- ・「聞き続ける事で、きき手である自分のキズを開く事もある。」ということに共感した。
- ・色々考える事、思い出す事があった。
- ・講師の先生方の声がとても印象的であった。穏やかに癒された。日本では、本来宗教家の役割を家族や地域の人々が担ってきたように思う。
- ・もう少し時間に余裕をもって講師の話をじっくり聴きたかった。
- ・宗教と病気の関係は今理解したいが、病気になったら、わらをもすがら状況になるかも…。
- ・「生きることの価値」を見つける事は難しいが大切だと思った。
- ・死ぬことへの心の準備を考えさせられた。
- ・「生きてきたように死ぬ」生き方に感銘を受けた。今の生き方が大切である事を冊子に銘じた。
- ・医療と宗教の微妙な関係、生きる事と死との境など、自分自身の終末期をどう送れば良いか考えさせられた。
- ・介護する側の考え方、気持ちの持ち様も考える必要を感じた。
- ・健康で死んでいきたいと感じた。
- ・健康で過ごす事が家族の幸せ、また自分の幸せであると感じた。
- ・改めて終末期を迎える時の準備が必要な事を感じた。
- ・これだけの内容を短い時間で聞けてよかった。死生観をテーマに定期的にやって欲しいほど。